

移住者が支える中山間地域



川井大輔さん

中山間地域、西川へ

西川町に暮らす川井大輔さんは、静岡県出身で平成24年にIターンしてきた移住者である。

西川町に移住する前、川井さんは電気工事業で働くかたわら、市民農園で野菜を育てたり農業の後継者不足や食料自給率の問題に関心があったりと農業に興味を抱いていた。「老後は農業をしているだろう」と思っていたこともあり、平成23年に東京で開催された「新・農業人フェア」に参加。西川町はその時説明を受けた自治体の一つだった。その2か月後に東日本大震災が発生。この影響で物流が止まったことで、食べ物が手に入りにくくなり、以前にも増して就農への思いが高まった川井さん。新・農業人フェアの後も積極的に声をかけてくれた西川町に移住することを決めた。

町の農業を支える

現在は中山間地域等直接支払制度の活動団体である月岡協定と本道寺協定に所属し作物の作付けや農地の管理を担っている。町内の高齢で営農が厳しい耕作者から農地等を借り受け、町の特産の蕎麦を中心に水稲、飼料用とうもろこし、つるむらさきなど様々な作物や養鶏などにも取り組んでいる。

「西川町では人手不足や高齢化で危機的状況にある。自分が現役の間は様々なことに挑戦しながら町の農業の衰退を阻止していきたい」と語っている。

西川町に移住して

農家のなり手が少ない現代、生産条件の不利な中山間地域ではその状況がより厳しい。そんな中、JAさがえ西村山農協青年部西川支部の7人は、川井さんを含め全員町外出身者とかかなり特徴的である（静岡県浜松市2名、神奈川県横浜市、埼玉県さいたま市、山形市、米沢市、寒河江市出身）。

山が好きで西川町に移住してその後就農した方や川井さんと同じように農業人フェアを通して移住してきた人などきっかけは様々である。青年部西川支部の方は啓翁枝、さくらんぼ、枝豆やブロッコリーなど様々な作物を栽培しているほか、毎年西川町の小学生に田植えや稲刈りの授業を行っている。



田植え・稲刈りの様子



川井さんが飼育する鶏



川井さんが栽培するそば

川井さんのそばが食べたい！

月岡協定は転作作物としてそばを栽培しており、そのほとんどを川井さんが管理している。協定にとって非常に力強い存在だ。そんな川井さんのそばはJAを通して、創業70年の老舗である玉谷製麺所に出荷している。



月岡集落



玉谷製麺所のそば